

・三位一体後第二十主日

泉のほとり

今月の詩編「第二十六編」

主よ、わたしを調べ、試みはらわたと心を火をもつて

試してください。



破れ担って

キリスト教を他の宗教から際立たせていることは、聖書の神は自らを与えてやまない神だということです。その極みがイエス・キリストの姿に最もよく表れています。イザヤ書53章にある通り、苦難の僕として、キリストは自らを投げ打ち、罪人に赦えられ、死なれたのです。私たちが罪と死の力から救われるため、新しい命に生かされるため、ご自分の身体が打ち砕かれるのを承知で、ご自分を与え尽くしたのです。

詩篇106編の出来事は出エジプト記の時の出来事を記しています。イスラエルは自分達の神を金の牛の像にとりかえてしまいました。神でないものを神とし、自分たちをエジプトから解放してくださった神を捨てたのです。そのイスラエルに神はお怒りになられ、彼らを滅ぼすとモーセに言われました。その時、モーセは民の破れを担って、神の前にたち、彼らを執りなしたのです。

このモーセの姿、キリストの姿を指し示していると思います。ルカ22章でキリストは弟子たちのために祈られました。決死の祈りでした。そして、それに続く十字架で苦難の死を遂げられたのです。そこに神は栄光の復活をお与えになられたのです。

実に破れを担うということはキリストの体である教会、それに属する一人、一人に与えられた使命です。他者への愛に生きる、それが破れを担うということです。

では、他者のために破れを担い、自分を差し出すとはどのようなことなのでしょう。第一に、キリストがご自分を裏切った弟子たちのために祈られたように、

祈るということです。自分が人間の冷たさ、無関心、無慈悲を受けたとしても揺らぐことなく祈る、その中でも隣人のことを思うということです。

第二に、キリストはたった一人で祈られました。誰かと手と手を取り合いながら、ということではありませんでした。たった一人でも自らを与える。そこには一つの甘えもありません。人からの同情や賛同を得られなくても、自分を与え尽くすことです。

第三に御心になるようにと祈ることです。自分の願い、自己満足、自分の宣伝、自分の主張のために破れを担うではありません。あなたの御心になりますようにと祈ることです。この身を差し出しますから、どうぞ用いてくださいと。

第四に苦しみ悶えて、ますます切に祈られたように、自分の体力、気力を全て注ぎ出すことです。自分の全てを注ぎ出すことであります。

これらの人の破れを担った主の執りなしにより、私たちは生かされているのです

日本でも破れを持った人たちがいます。あらゆるものに心奪われ、なりうるものになりきれずに破れている人たちがいます。そのような中で、私たちの使命は破れを担うことです。キリストから力を受け、苦しみにあずかり、十字架の道を歩む、それが破れを担うということです。それこそ私たちに必要な生き方です。その時、私たちは地の塩、世の光として、平和を作り出す働きができるのではないのでしょうか。

(詩篇一〇六編一九・二三)

ルカ二二章三九・四六節)

2023年度

教 会全体課題

日々聖書に聴き、

御言葉に従って歩む。

2023年度

心に刻む御言葉

生まれたばかりの乳飲み子のように、
混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。
これを飲んで成長し、救われるようになるためです。

(ペテロの手紙一 2章2節)

《コイノニアキャンプ スケジュール》

・二二日土曜

一二時五分羽田発

金浦から光州へ移動

歓迎会及び開会礼拝

歓迎晩餐会後、教員家庭訪問

・二二日日曜

主日礼拝

教会員の方々と交わり

一四時教会出発

一五時光州空港発一六時済州島到着

親交プログラム

・二三日月曜

「聖書植物園」「巡礼者の教会」

「モスルボ教会」探訪

「松岳山」、「龍頭海岸」探索

各教会の現状報告

・二四日火曜

「4・3平和公園」、「エコランド」

「サリヨニの森」、「サングムブリ」など探訪

気候環境保存及び次の世代のための討論会

お別れ晩餐会

・二五日水曜

ホテル発

午前八時済州空港出発

午前九時金浦空港到着

午後一二時四五分発一五時羽田空港到着

解散

《今日のお知らせ》

○ 牧師はじめ教会員16名はコイノニアキャンプに参加するため、昨日、韓国・光州へ出発しました。キャンプのために祈りください。

○ 先週の週報で告知しました通り、今日の第一礼拝のプロジェクトの映写ができません。お手元の第一礼拝順序と週報「泉のほとり」をお用いください。

○ 今日の第一礼拝は聖餐奉仕者が足りないため、説教壇側のみで配餐を行います。

○ 十月二七日(金) 十時三十分一十二時シオンの会を第一第二シオンルームにて行います。

(オンラインも併用します) テキスト 「聖書が教える世界とわたしたち」七五救いの歴史の始まり・神の民イスラエルの誕生・シナイ契約から読みます。参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《ぶどうの会より》

○ 第一礼拝後にぶどうの会を行います。第二礼拝の前までです。場所はカナンルームで行います。

《今後の予定》

○ 十一月五日 信仰者たちに学ぶ会

○ 十一月十一日 慕苑礼拝

○ 十一月十二日 成長感謝礼拝

《四国便り》

「二〇周年を迎えて」（その1）
英国への旅のはじまり。

若き日の私に主なる神様は「神は愛なり！」の御言葉を閃光が走るかの如くに何度も何度も私の靈魂を直撃されたのです。あまりの驚きと感謝と喜びで涙々の中から救われ、一年後の二六才の時に受洗の御恵みを賜りました。

四〇代の初めの頃に、主人の転勤により二人の娘と共に私達は東京に住むことになりました。以来、慈しみ深い主のご臨在の中で信仰の成長をさせていただきながら、東京での生活を楽しんでおりました。

そんなある日、どなたかが、高田の馬場にある早稲田奉仕園で行われる「聖霊セミナー」にお誘い下さったのです。主なる神様はこの会場においても、私に人生の出会いの不思議さを体験させて下さいました。

信仰の高潔さの中に主イエス様の謙遜と柔和なお人柄をうれしく直感したのです。こうして、この日、私は人生の宝となる信仰の友を賜りました。この格別なるご配慮を思う時は思わず主の御前に平伏しなくなります。その女性日牧師は今も横浜で主が尊くお用いになつておられます。

二〇二一年の春にその日牧師から電話があり「田端先生、突然ですが、恵子ホームズさんという女性をご存知でしょうか？」と聞かれました。私は「いいえ、一度も聞いたことのないお名前ですが・・・」と答えました。

この会話が始まった瞬間から、主なる神様は私の為に英国行きの信仰の旅のプログラムの一ページを聖なる御手で開きはじめて下さったのです。

主にハレルヤ！ 一つづくー

シオン・フルゴスベル・チャーチ
ヴェロニカ・田端良恵

《礼拝カテゴリーより》

これまでプロジェクトにて礼拝順序を映写してきましたが、一二月以降中止することと致しました。今後、第一礼拝では座席前ポケットに常備されています「第一礼拝順序」と週報「泉のほとり」四面をご覧いただき、第二礼拝では、「礼拝のしおり」と「讃美歌」をお持ちくださいますよう、お願いいたします。

（「礼拝のしおり」は案内係にて

お貸出も行っています）

《今日の子ども礼拝》

説教 「罪人を招くために」
聖書 ルカ5章27〜32節
説教者 宮間彰広 兄

《次週の礼拝》

● 子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「起きて歩きなさい」
聖書 ヨハネ5章1〜11節
説教者 吉村和雄 名誉牧師

● 第一礼拝（午前9時30分）

讃美歌 6番 301番
説教 「マルタとマリア」
聖書 ルカ10章38〜42節
説教者 宮間彰広 兄

● 第二礼拝（午前11時）

讃美歌 20番 275番
説教 「欲しいだけ分け与えられた」
聖書 ヨハネ6章1〜21節
説教者 黄允湜 牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 6番 301番
説教 「正しい人を招くためではなく」
聖書 マタイ9章9～13節(新約P15)
司式 石川 一兄
聖餐司式 菊池 美穂子 副牧師
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「グローリア」F.クーラン

○ 讃美歌6番

1. われら主をたたえまし きよき御名をあがめばや
くる日ごとほめうたわん 神にまし王にます
主のみいつたぐいなし
2. 世は世へとうたいつぎ よろこびとおそれもて
主のくしきわざをつげ いつくしみ知れるもの
みさかえをほめたう
3. みめぐみはかぎりなく 主にたよる子らにあり
みいかりをしのびつつ あわれみをたれたもう
主をあいし、主につかえん

アーメン

○ 讃美歌301番

1. 山べにむかいてわれ 目をあぐ
助けはいずかたよりきたるか
あめつちのみかみより たすけぞわれにきたる
2. み神は汝の足をつよくす
み守りあれば汝は うごかじ
みたみをば守るもの まどろみねむりまさじ
3. み神はあだをふせぐ たてなり
汝が身をつねに守る かげなり
よるは月 ひるは日も 汝をばそこなうまじ
4. み神はわざわいをもさけしめ
疲れしたましいをもやすます
いずるおり いるおりも たえせず汝を守らん

アーメン

聖餐曲「いさおなき我を」D.ウット

後奏曲「プラン・ジュ」L.N.クレラソボー

第二礼拝 (午前11時)

讃美歌 19番 271(Ⅱ)番
説教 「あなたの信仰があなたを救った」
聖書 マルコ5章21～34節(新約P70)
司式 石川 一兄
聖餐司式 菊池 美穂子 副牧師
説教者 菊池 美穂子 副牧師

前奏曲「おお主なる神よ、汝のみ言葉は」J.S.バッハ

○ 讃美歌19番

○ 讃美歌271(Ⅱ)番

聖餐曲「いさおなき我を」D.ウット

後奏曲「プラン・ジュ」L.N.クレラソボー

※ 礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。